



三星の風

第20号

平成19年12月3日

鹿児島県立
鹿屋高等学校

三星道場（職業講話）

～十人の先輩による授業

十一月三日（土）、三星道場の特別講座として一年生を対象に『職業講話』が開催されました。各界で活躍されているOB・OGをお招きして、先輩方の普段の仕事の内容はもちろんのことその仕事に就こうと思ったいきさつや、高校時代になんかことをしておけば良かったなど、様々なお話をしていただきました。個性溢れる素敵な授業に生徒は熱心に聞き入り、これからの「自分探しの旅」への第一歩となる貴重な機会となりました。



卒業生の熱い思いが伝わる授業！

公開授業および小中高大連携

十一月二十二日（木）に、「学力向上における小・中・高・大連携の果たす役割―自宅学習を定着させる指導のあり方とは―」のテーマのもと、本校において公開授業および小中高大連携の意見交換会が実施されました。日頃行っている授業を公開し、指導内容・指導方法について多くのご意見をいただきました。また、地域教科研究会では、大学を含めた連携の方向性や基礎学力を高めるための授業のあり方について分科会ごとに積極的な議論がなされました。

リラクゼーション講習会

十一月九日（金）、受験を間近に控えた三年生を対象に、緊張やストレスを和らげ、自己管理できるような訓練法を身につけるように、「受験時上がり防止・集中力アップにつながる呼吸法」のテーマ・内容の講習を実施しました。講師の薬剤師田中淳仁先生の指導のもと、三年生も心身のコンディションを崩さないためのコツを見つけたようです。また本校ALTレイチェル先生の『Comfort Foodレシピ』も配布され、リラクゼーションできる料理も紹介されました。

修学旅行―二年生

二年生は十月三十日から十一月三日にかけて、マレーシア・シンガポールへの修学旅行を実施しました。英語を用いた国際的な体験をすること、異文化を理解し尊重する精神を涵養すること、団体行動を通して集団生活の決まりやマナーを守り、級友との親睦を深めることで高校生活をより豊かなものにするなど、目的として実施しました。十月三十日、一班は三時半、二班は四時半という早朝に学校へ集合し、諸注意の後、クアラルンプールに向けて出発しました。初めて



集中力アップ
呼吸法！

海外を訪れる生徒がほとんどで、出入国の審査でも多いようでした。飛行機の中では、映画を見たり、ゲームを楽しんだりして過ごしていました。予定通り無事にホテルに到着し、遅めの夕食をとり就寝しました。二日目は、クアラル



りました。クアラルンプール市内で王宮・国家記念碑・国立モスク・独立広場などを見学し、午後には、マラッカへ移動し、セントポール教会、オランダ広場、サンチャゴ砦などを見学しました。地理的好条件から東西の文明と交易の交差点となったこの街で、ポルトガル・オランダ・イギリスの植民地支配が創り上げた独特の異国情緒を体感し、歴史を感じる日となりました。三日目は、シンガポールへ入国しました。陸路で国境を越えるという貴重な体験ができました。シンガポールでは、マライオン公園、フェーバー丘などを見学しました。シンガポールでは綺麗な街並みに加えて、近代的でかつエキゾチックな街並みにアジア文化が集結したエネルギーを感じました。四日目はセント・サ島自主研修が主な日程となりました。夜は、世界初の夜だけ開園する動物園のナイトサファリを見学しました。夜行性動物が、自然に近い状態で飼われていたことが、特にボンゴ、インドサイなどの絶滅の危機にある動物も多く飼育されており、地球の環境問題



を考えさせられる夜になりました。その後、シンガポール空港から夜行便で日本へ向け、帰国の途につきました。



十一月三日早朝、一班は福岡国際空港、二班は成田空港に到着し、午後には鹿屋へ帰ってきました。

した。五日間という短い旅行でしたが、いろいろなことを実際に体験すること
 で、より深く文化や生活に触れ、感動的な出会いや発見ができたと思います。この時期に海外を旅し、広い視野を身につけ、国際理解が得られたということが、二一世紀を生きる生徒諸君の世界観・人生観を広げることに関与することと信じています。



修学旅行感想文

二年二組 女子生徒

〜抜粋〜初めての海外旅行で戸惑う面も多くあったけれど、一番印象深かったのは、学校で学んでいる英語を使って話すことがとても楽しいと感じたことだった。相手の思いがわかり、自分の思いを伝え、それが伝わったときの喜びを初めて体験した。しかし、いつも伝わるわけもなく、同時に自分の英語力のなさも痛感した。言葉の壁はやっばり大きいものだ。今回の旅行から、英語への意欲が少しわいてきた気がする。いつの間にか異文化をもっとと学びたいという気持ちになってきた。貴重な体験をもっとこれからきついてもあるだろうけれど、視野を広げて生活して行きたいと思っています。

二年二組 女子生徒

〜抜粋〜マレーシアもシンガポールも、日本とは言葉はもちろん気候も食事も文化も何もかも全てが違ったので、旅行中はずいっと違和感を私ははげしく感じることができませんでした。〜抜粋〜日本と違い、常に万全の衛生状態ではなく水道水など満身に飲むことすらできない

ない国々でしたが、それでもやっぱり日本とは全く違った美しさをもった国々だったと思います。一年を通じて美しい花々が咲き乱れ、日本とは全く違う建造物、ただただ感嘆の声を出すことしか私には出来ませんでした。大勢の人種の異なる人々が、同じ言葉を共通に使い母国の言葉を親しい人々との会話で使っているのを聞いて、自分の国の文化を遠い異国の地で失うことなく、むしろその土地の文化と融合させて根付かせていることは、とてもすごいことだなあと思いました。

二年四組 女子生徒

〜抜粋〜私が修学旅行で感じたことは、海外との違いによって知った日本の素晴らしさです。(中略)日程はとても楽しく充実していましたが、少し残念だったのは『ごはん』です。別におなかを壊したわけではありませんがバサバサが残念でした。やっぱりお米は日本のものが一番でした。また、日本の『四季』の素晴らしさも実感することができました。異文化の理解をすることができ、それによって日本のよさを知ることができたのが一番の収穫でした。



貴重な体験
楽しい思い出!



二年四組 女子生徒

〜抜粋〜私のマレーシアやシンガポールに対する印象は自分が想像していたものより発展していました。また、マレーシアで一番驚いたのは、王様が何人もいるということでした。(中略)今回の修学旅行で、日本とマレーシア・シンガポールの文化の違いをここに書き尽くせないくらい知ることができました。そして、現地の人々が私たち日本人に話しかけてきたりして、自分にはもって日本人としての誇りを持って行動しようと思った。また、地理で学んだ内容を体験することができたことも大きな収穫の一つでした。

二年七組 女子生徒

〜抜粋〜マレーシアからシンガポールへ入国する時に、少し考え方の違いを感じました。私たちは2列に並んでいたのに、当たり前のように割り込んできたのです。そして、私たちは1列に並んで2列になるように言うてきました。一見かなり失礼な行為に見えますが、彼らの態度を見ているとただ単に割り込んで来たわけではない気がしました。彼らの英語が全く聞き取れたわけではないし彼らなりの考え方があったのではないかと思いました。(中略)私は旅行中、割と外国の方に話しかけられた気がします。それは、多分私が外国の方とコミュニケーションをとりたいと思っていたのが伝わったのだと思います。食事も、日本との違いを体験してみたかったのでみんなよりもおいしく食べられました。

秋季大会報告②

先月に引き続き県大会・地区大会で本校生は素晴らしい活躍を収めました。

- ・ボート部
 - 第19回全国高等学校選抜競漕大会
 - 九州地区予選
 - 女子舵手付クオドルプル 第3位
 - バスケットボール部
 - 地区大会女子優勝
 - 同大会男子準優勝
- ・テニス部
 - 地区大会 男子団体優勝
 - 女子団体優勝
 - 個人女子シングルス優勝
- ・剣道部
 - 県勝ち抜き剣道大会 敢闘賞五人抜き
- ・書道部
 - 曾於・肝属地区揮毫大会
 - 創作部門 大賞・高書研賞
 - 臨書部門 準大賞・高書研賞

12月の主な行事

11月30日(金)	12月5日(水)
〜	〜
3日(月)〜7日(金)	7日(金)
期末考査	クラスマッチ
〜	10日(月)〜
三年生進路検討会	三年生三者面談
〜	11日(火)
〜	14日(金)
〜	8日・15日(土)
〜	18日(火)
〜	生徒会役員選挙
〜	21日(金)
〜	25日(火)
〜	28日(金)
〜	終業式
〜	〜
〜	冬季課外
〜	仕事納め

学べば学ぶほど自分が何も知らなかったことに気づく気づけば気づくほどまた学びたくなる
 〜アインシュタイン

毎月発行するこの「三星の風」は、鹿屋高校のホームページにも掲載されています。
<http://www12.synapse.ne.jp/kanoyakoukou/>